今だからこそ予防できる“がん”があります



どのくらいの人が子宮頸がんになるの？

- 日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、毎年、約3,000人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。
- 患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に約1,000人います。

出典：国立がん研究センターがん情報サービス2021年全国推計値に基づく累積罹患リスク、2024年累積死亡リスク、2024年人口動態統計がん死亡データより

HPVワクチンの一般的な接種スケジュール

日本では、小学校6年～高校1年相当の女の子を対象に、子宮頸がんの原因となるHPVの感染を防ぐワクチン（HPVワクチン）の接種を提供しています。



※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。
※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上（※2）、3回目は2回目から3か月以上（※3）あけます。

子宮頸がんで苦しまないためにできることは？

ポイント❶

HPVワクチンで HPVの感染を予防

＋

ポイント❷

子宮頸がん検診で がんを早く見つけて治療

ワクチンを接種していても、していなくても、
20歳になったら子宮頸がん検診を必ず定期的に受けてください

公費でHPVワクチンを接種できる対象者は？

小学校6年～高校1年相当の女性

HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労省 HPV

HPVワクチンに関するよくあるご質問（Q&A）については、こちらをご確認ください。

ひと、くらし、みらいのために 厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

編集・発行／高千穂町企画観光課広報係
〒882-1192 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井13番地
TEL 0982-73-1212 FAX 0982-73-1234